

環境活動レポート

第16号

対象期間：2023年4月～2024年3月

作成日 2024年5月15日作成

目次

①	組織概要(対象範囲含む)
②	環境経営方針
③	組織図
④	環境経営目標
⑤	環境活動計画
⑥	環境目標の実績
⑦	環境活動計画の取り組み結果とその評価及び、次年度の取り組み内容
⑧	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無
⑨	代表者による全体評価と見直し結果

①組織概要

社名：ジャノメダイカスト株式会社

代表者：代表取締役社長 芳川敏雄

管理責任者：製造部 部長 前田新次

所在地：〒402-0011 山梨県都留市井倉沢戸775番地

電話：0554-43-5505(代表)

: 0554-43-5506(営業部直通)

FAX: 0554-43-5797

創業：1969年11月

設立：2002年4月

資本金：1億円

株主：株式会社ジャノメ(100%)

床面積：6949.8m³



従業員数：105名(代表者除く) 2024年4月時

事業内容：ダイカスト鑄造品及び石膏鑄造法による軽合金鑄造製品

製造及び販売

認証・登録範囲：本社(1拠点)

沿革

1969年	山梨県都留市に「蛇の目金属工業株式会社」として設立
1970年	操業開始
1971年	鑄造～機械加工の一貫体制を確立
1972年	自社開発による自動給湯機の実用化に成功
1974年	資本金1億5,000万円に増資
1978年	第3号棟竣工
1985年	石膏鑄造生産開始
1987年	Mg製品(ダイカスト・小ロット鑄造品)の製造開始
1990年	蛇の目金属工業(株)は蛇の目マシン工業(株)と統合
1999年	東芝機械製の超高速ダイカストマシン導入
1999年	山崎マザック製のMC4機導入しミシン一貫加工確立
2001年	三次元光造型機導入
2002年	蛇の目マシン工業株式会社より分社設立
2007年	新1号棟竣工
2015年	新3号棟竣工
2019年	ダイカストマシン1250t導入

②環境経営方針

JANOME

環境経営方針

基本理念

ジャノメダイカスト株式会社は地球規模での環境保全活動の必要性を認識し、全社を上げて環境保全活動に取り組むとともに当社の各部門は関係各社とともに連携して地球に優しい企業運営活動を通じて地域、社会に貢献していきます。

環境経営方針

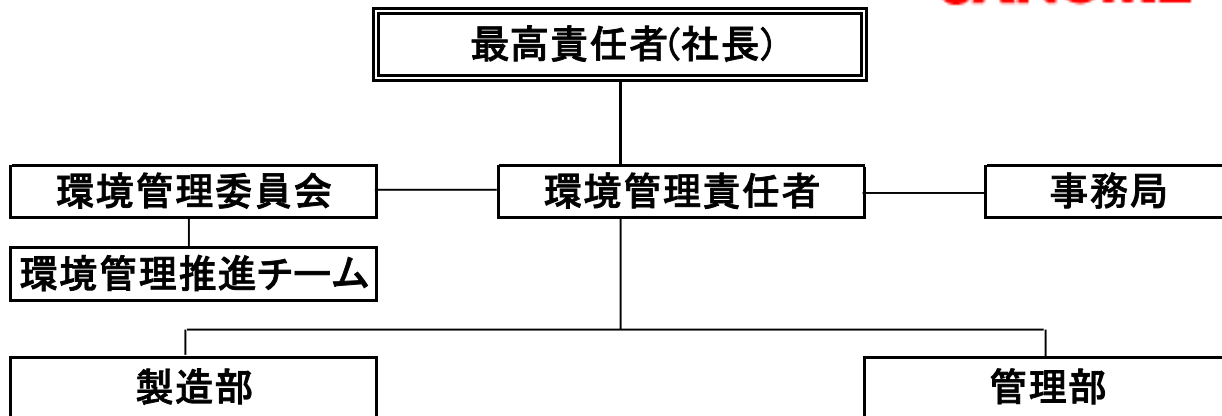
ジャノメダイカスト株式会社はミシン、自動車、各種産業機器のダイカスト部品、石膏鑄造品の生産、販売活動を通じて省資源、省エネルギー、リサイクル化を推進して環境保全活動と環境負荷物質の低減に向けた改善活動を推進します。

1. 環境保全活動及び環境経営活動の推進により、環境改善を実現し地域、社会に貢献致します。
2. ユーザー（顧客）への情報提供、サプライヤー（供給者）との情報交換を行い関係会社とともに環境保全活動を推進します。
3. 資源の有効利用、資源の再利用を図り、環境負荷の少ない機械、設備、資材、消耗品等を優先的に購入、調達します。
4. 環境マネジメントシステムの維持と効率的な運用により環境保全活動を推進いたします。
5. 環境保全に関連する法令、規則、条例、その他の要求事項を遵守するとともに、自然環境の保全を現実的に可能な限り配慮し、汚染の予防に努めます。
6. 環境方針を達成する為に改善目標を設定し活動の推進とその達成度を定期的に監視し、必要に応じてシステムの見直しを行い、継続的改善に努めます。
7. この環境方針を全従業員が行動、実践できるように文書にて周知するとともに関係各社及び協力会社へも文書にて周知し理解と協力を要請いたします。
8. 環境経営への継続的改善を誓約します。

見直日:2023/5/1
代表取締役 社長 芳川敏雄

③組織図(環境体制図)

JANOME



役割分担

役職名	役割	主な担当内容
最高責任者 社長	環境マネジメントを 計画的 に実施する為の内容を確 認、決定する。	①環境方針の策定と改訂 ②システムの確立と維持する為の財源、人的資源、 インフラストラクチャーを確保する。 ③環境管理責任者を任命する。 ④システムの見直しを実施する。 ⑤マネジメントレビューの実施 ⑥環境目的、目標及び実施計画を承認する。
環境管理責任者	環境マネジメントシステムの 確立、実施を維持する。	①システムの確立と実施及び維持 ②各Gへの環境側面の抽出、環境影響評価並びに法 的及びその他の要求事項の調査指示 ③各Gへの環境目的・目標及び実施計画作成指示 ④環境管理マネジメントに関する教育計画の作成指 示 ⑤システムの監視及び測定と環境目的の達成状況 並びに法的及びその他の要求事項への適合及び遵 守状況の確認指示 ⑥環境レポートの承認
環境管理委員会	環境管理責任者を委員長と して執行役員及び各GLで構 成し環境マネジメントシス テム及び環境改善に関する計 画、管理、進捗、報告につい て月1回審議する。	以下の事項について審議する。 ①環境マネジメントシステムの維持、管理に関する事 項 ②各Gが作成した環境目的・目標及び実施計画 ③システムの監視及び測定と環境目的の達成状況 並びに法的及びその他の要求事項への適合及び順 守状況
事務局	環境管理責任者の補佐	①環境レポートの作成 ②関連書類、文書の保管
環境推進チーム	各グループ毎に1名選出さ れ、環境関連活動の社内伝 達及び所管グループ内の環 境マネジメントシステムの維 持管理をする。	①月1回の業務品質環境会議での所属G活動内容の 報告 ②グループ内環境活動目標の制定、維持管理 ③環境関連に項目に対する教育の実施

④環境経営目標

JANOME

当社の環境目標は以下の通りである。

(中期)

	2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量	2022年度売上 対比3%減	2022年度売上 対比5%減	2022年度売上 対比7%減
産業廃棄物処理量	2022年度売上 対比3%減	2022年度売上 対比5%減	2022年度売上 対比7%減
水資源投入量	2022年度売上 対比3%減	2022年度売上 対比5%減	2022年度売上 対比7%減
化学物質使用量の管理	2022年度売上 対比3%減	2022年度売上 対比5%減	2022年度売上 対比7%減
グリーン調達	原材料メーカーへの周知100%	同左	同左
エネルギー使用量を削減した製品の売上向上	2022年度自社対比3% エネルギー使用を削減した製品の売上向上	2022年度自社対比5% エネルギー使用を削減した製品の売上向上	2022年度自社対比7% エネルギー使用を削減した製品の売上向上

※次回中期目標見直し時期:2023年度マネジメントレビュー完了後

⑤環境活動計画

以下に2023年度 各項目毎の主な活動計画を記す。

1) 二酸化炭素排出量減

①電気使用量の削減

- ・エアコン有効活用による電気使用量削減
- ・エアー漏れ箇所の把握及び修理

②重油・ガス・ガソリン使用量の削減

- ・集中溶解炉の温度設定
- ・長期休暇に合わせた生産計画立案による集中溶解炉の停止
- ・出張時の車移動削減(電車移動の検討、実施)

2) 産業廃棄物処理量の削減

- ・DX推進による紙ベースの保存削減
- ・切削油の漏れ修理(作業環境改善を含む)
- ・廃プラ、紙ごみのリサイクル化

3) 水資源投入量の削減

- ・金型冷却水の水漏れ削減
- ・各水漏れ箇所の修理

4) その他

- ・法的必要提出書類の整備
- ・化学物質使用量の管理

⑥環境目標の実績

2023年度売上高

JANOME

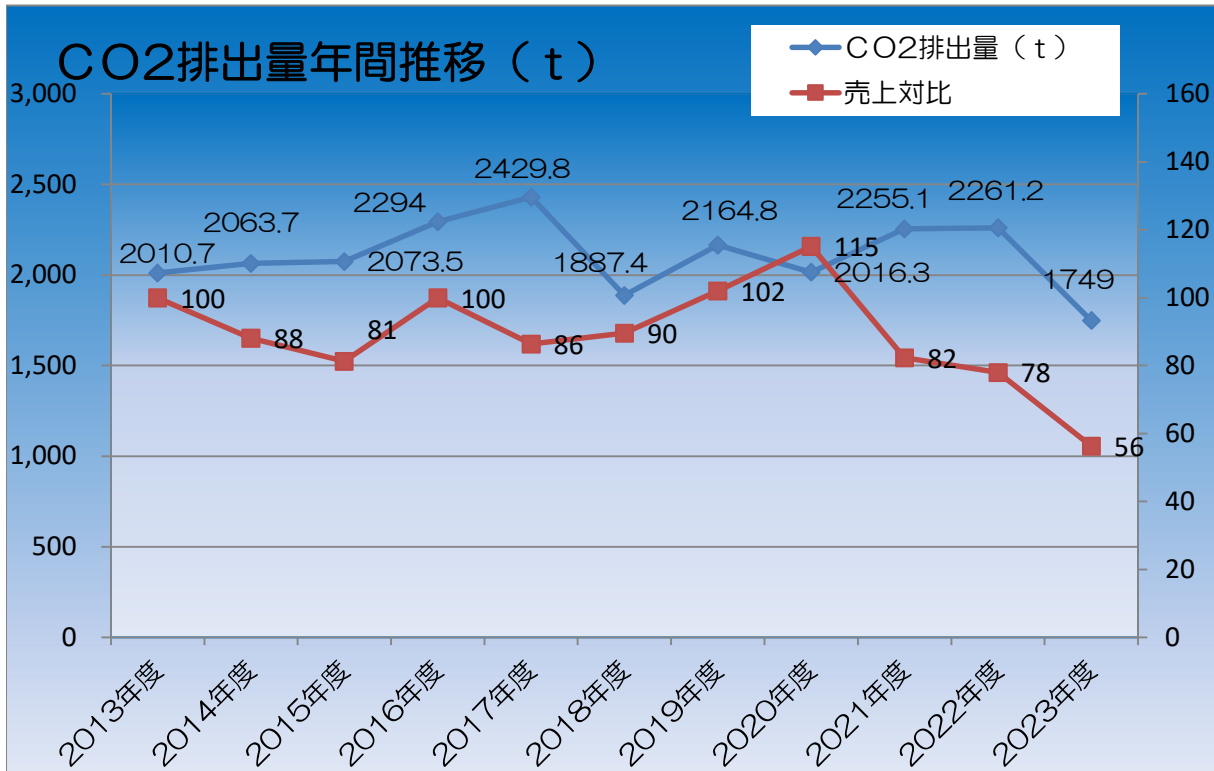
◎二酸化炭素排出量

(二酸化炭素係数:0.441)

2023年度 二酸化炭素排出量:1149.8t/CO₂ 排出

目標:2022年度対比 3%減

2022年度対比22.7%削減

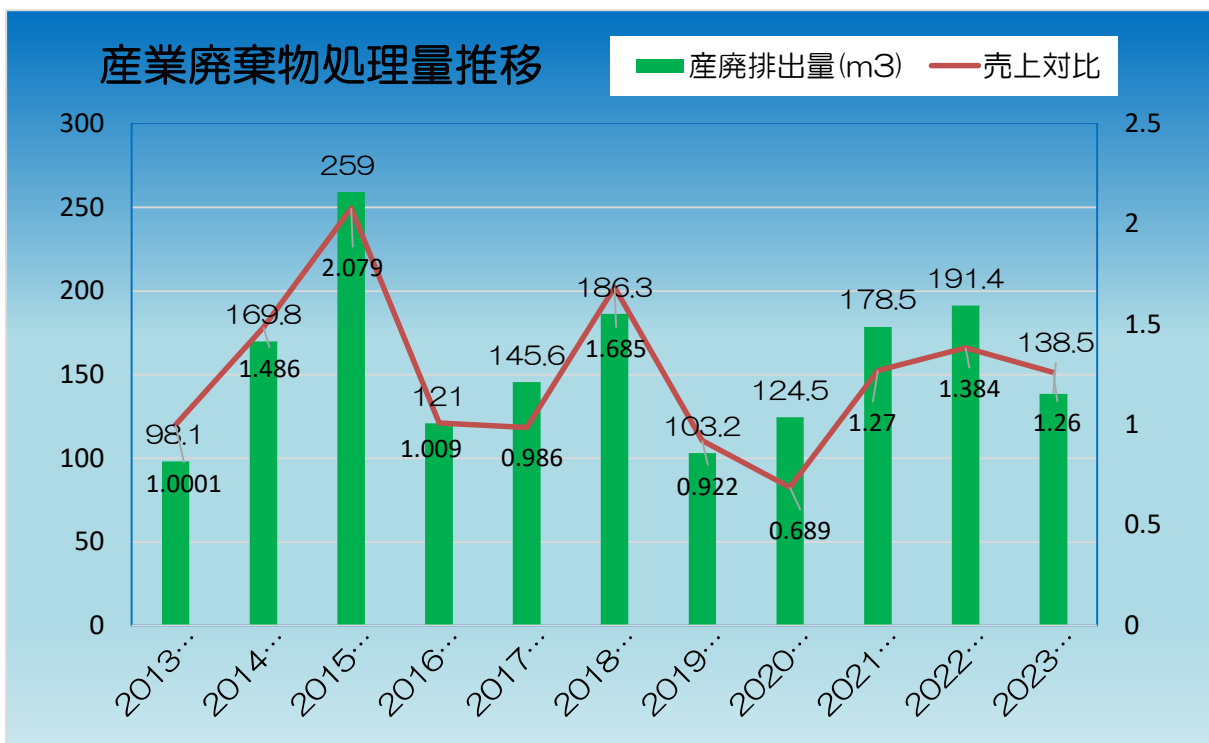


◎産業廃棄物処理量

目標:2022年度対比 3%減

2023年度 産業廃棄物処理量:138.5m³ 排出

2022年度対比27.6%削減

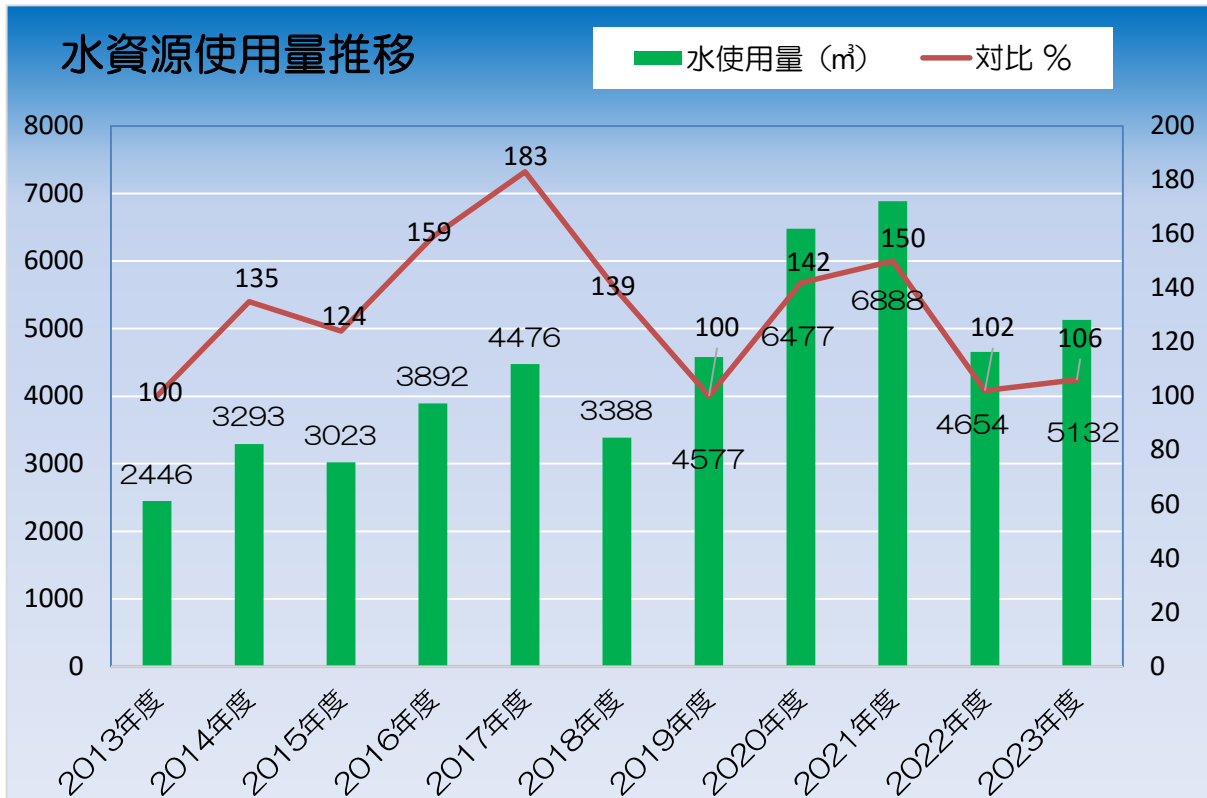


◎水資源投入量

2023年度 水資源投入量:5132m³/月 使用

目標:2022年度対比 3%減

2022年度対比10.2%増

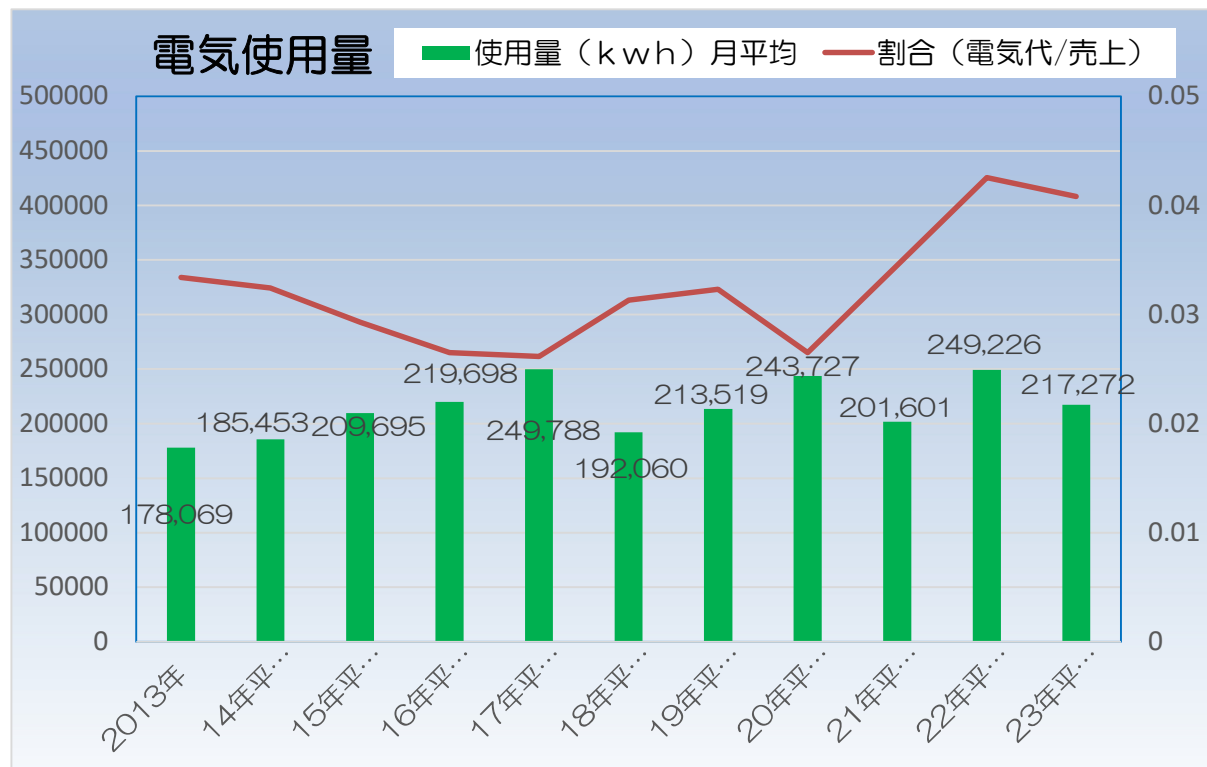


◎電気使用量の推移

目標:2022年度対比 3%減

2023年度 電気使用量:217,272KW/月平均

2022年度対比12.8%減

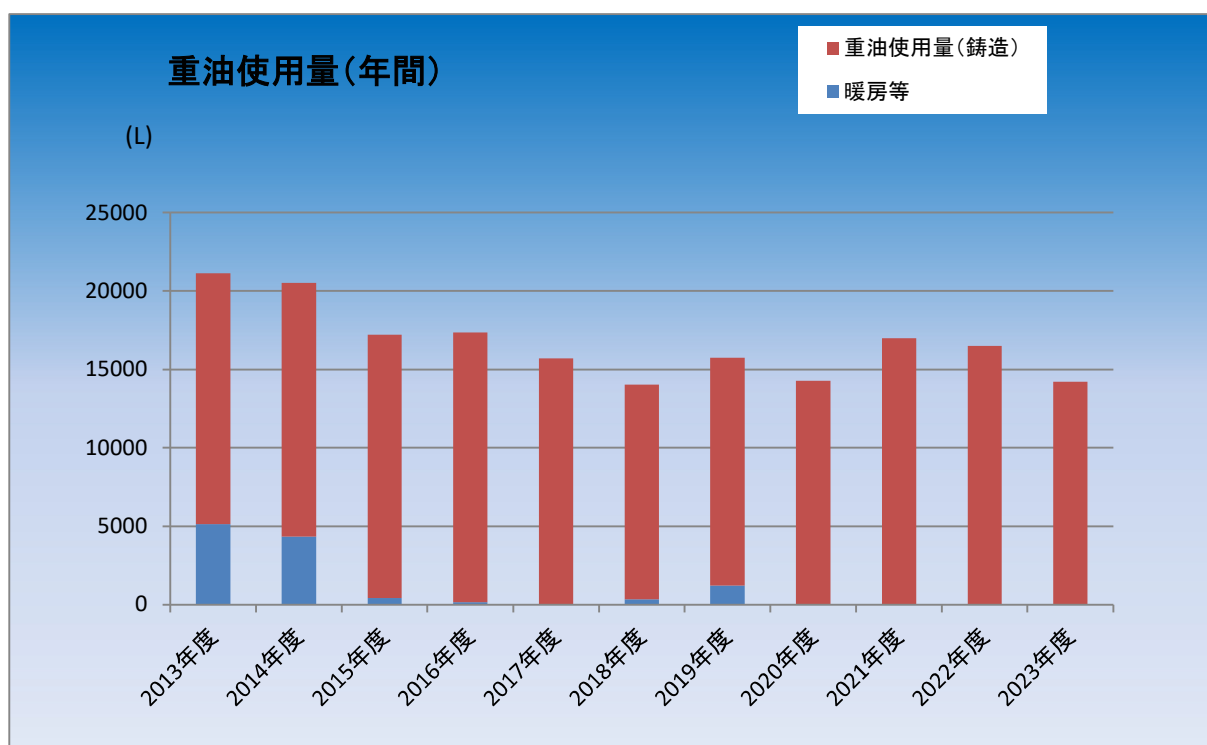


◎重油使用量の推移

2023年度 重油使用量:14204L/月平均

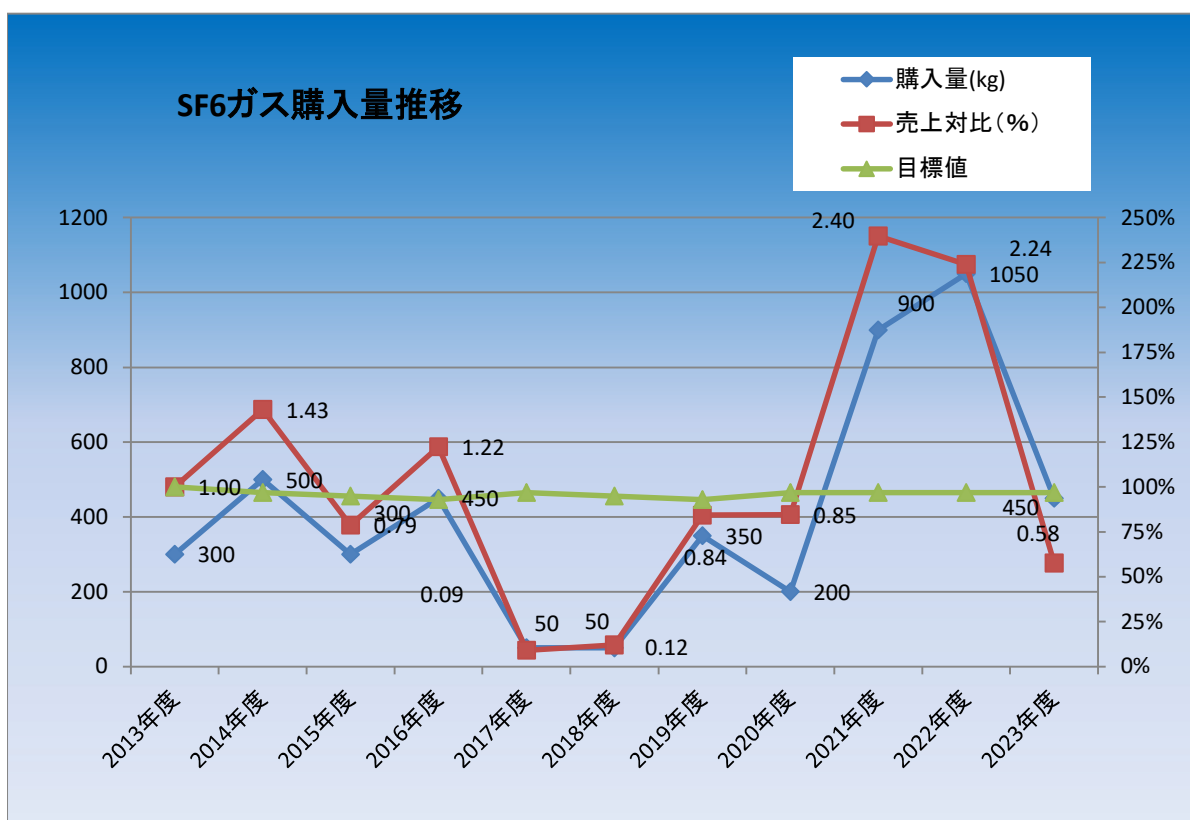
2022年度対比14%減

JANOME



◎化学物質(六フッ化硫黄ガス)購入量推移

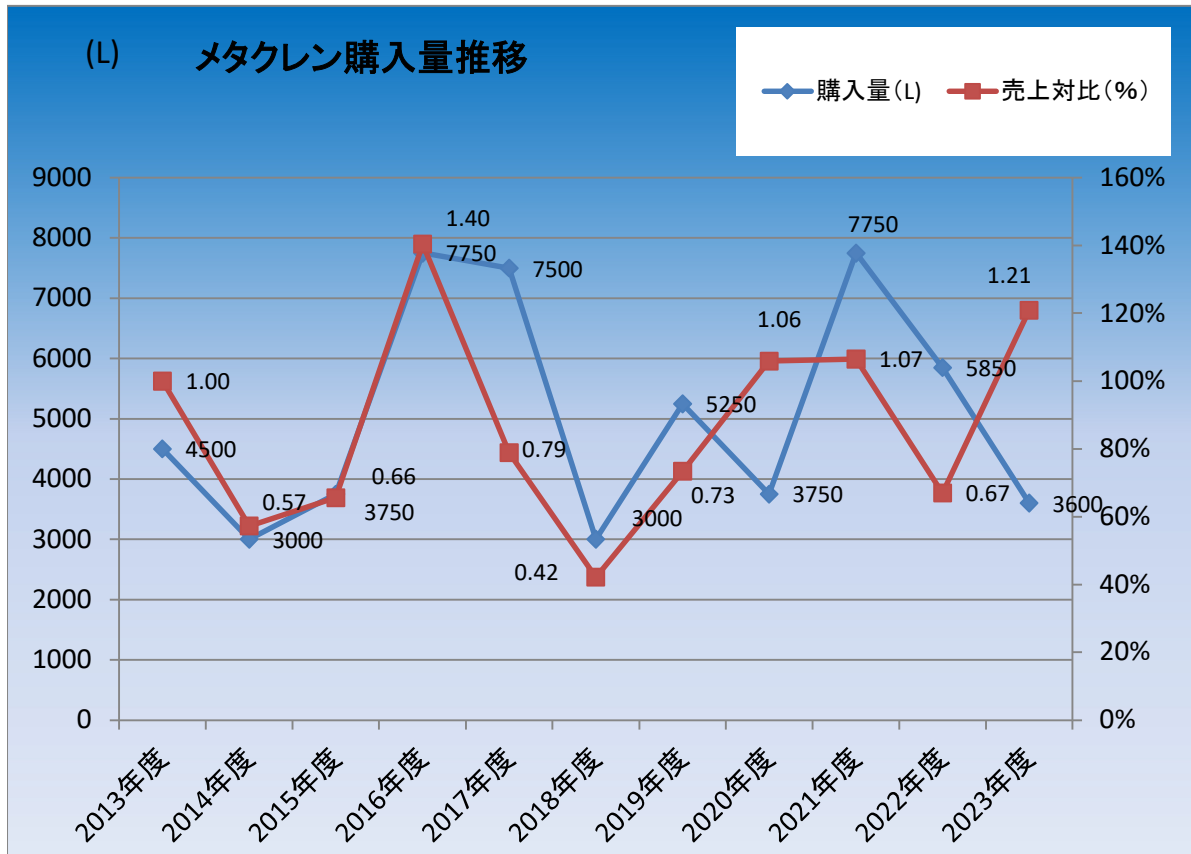
2023年度 六フッ化硫黄ガス購入量:450kg/年



◎化学物質(メタクレン)購入量推移

2023年度 メタクレン購入量:3600L/年

2022年度対比38.5%減



⑦環境活動計画の取り組み結果とその評価 及び、次年度の取り組み内容

活動計画の取り組みを実施した結果を以下に記す。

取り組み結果 (2022年度比)

	目標値	実績値	達成度	活動評価	コメント及び次年度の取り組み内容
二酸化炭素排出量	3%減	22.7%減	○	○	次年度も引き続き電気、重油、ガス、ガソリンの使用量削減に向け、取り組んでいく。
電気使用量	3%減	12.8%減	○	○	生産量減少に伴い減少、目標達成
重油使用量	3%減	14.0%減	○	○	次年度も引き続き計画的な長期休暇での集中溶解炉の停止を行う。
産業廃棄物処理量	3%減	26.7%減	○	○	次年度も引き続き、切削油の漏れ修理、廃プラ、紙ごみのリサイクルを行う。
水資源投入量	3%減	10.2%増	×	△	機械清掃に水を多く使用し増加。次年度も引き続き金型水漏れ修理、各水漏れ箇所の修理を行う。
化学物質＝六フッ化硫黄ガス	3%減	42.4%減	○	○	Mg製品の受注量が減ったため減少 次年度も引き続きSF6の使用量管理を行う。
化学物質＝メタクレン	3%減	20.9%増	○	○	生産の都合により購入量が減少し目標達成。 次年度は代替品の検討を行う。
グリーン調達基準			○	○	グリーン調達基準書の周知に努めた。 次年度も引き続き協力メーカー等に周知していく。

※達成度・・・○:達成 ×:未達

活動評価・・・○:活動計画達成率80%以上 △:50%以上 ×:50%未満

次年度の目標は以下の通りである。

環境経営目標

JANOME

当社の環境目標は以下の通りである。

(中期)

	2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量	2022年度売上 対比3%減	2022年度売上 対比5%減	2022年度売上 対比7%減
産業廃棄物処理量	2022年度売上 対比3%減	2022年度売上 対比5%減	2022年度売上 対比7%減
水資源投入量	2022年度売上 対比3%減	2022年度売上 対比5%減	2022年度売上 対比7%減
化学物質使用量の管理	2022年度売上 対比3%減	2022年度売上 対比5%減	2022年度売上 対比7%減
グリーン調達	原材料メーカー への周知100%	同左	同左
エネルギー使用量を削減した製品の売上向上	2022年度自社対比3% エネルギー使用を削減した製品の売上向上	2022年度自社対比5% エネルギー使用を削減した製品の売上向上	2022年度自社対比7% エネルギー使用を削減した製品の売上向上

※次回中期目標見直し時期:2023年度マネジメントレビュー完了後

環境活動計画

以下に2024年度 各項目毎の主な活動計画を記す。

1) 二酸化炭素排出量減

①電気使用量の削減

- ・エアコン有効活用による電気使用量削減
- ・エアー漏れ箇所の把握及び修理

②重油・ガス・ガソリン使用量の削減

- ・集中溶解炉の温度設定
- ・長期休暇に合わせた生産計画立案による集中溶解炉の停止
- ・出張時の車移動削減(電車移動の検討、実施)

2) 産業廃棄物処理量の削減

- ・DX推進による紙ベースの保存削減
- ・切削油の漏れ修理(作業環境改善を含む)
- ・廃プラ、紙ごみのリサイクル化

3) 水資源投入量の削減

- ・金型冷却水の水漏れ削減
- ・各水漏れ箇所の修理

4) その他

- ・法的必要提出書類の整備
- ・化学物質使用量の管理

⑧環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反、訴訟等の有無

結果

遵守評価年月日：2023年5月1日

環境関連法規等の遵守状況を評価した結果、環境関連法規への違反はなく、問題ございません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去5年間ございません。

環境関連法規

番号	法令名称	該当	要求事項	遵守	判定	備考
1	山梨県の生活環境の保全に関する条例第二十条	排水基準	条例別表第一及び第二の二と おり	○	○	月1回の排水計量を実施 ジクロロメタンの排水無し(気化のみ) 但し年1回上記計量を自主的に実施 山梨県立ち入り検査において問題なし
2	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	ジクロロメタン 洗浄装置	公害防止管理者選出	○	○	2016年度に公害防止管理者等の選任・届 出済(技術G坂本)
4	大気汚染防止法	アルミ溶解炉 (ER1000)	各種届出・自主検査の実施 及び記録の保管	○	○	2008/12設置届け、自主検査実施結果の保 管、氏名変更2013/4届け
5	水質汚濁防止法	ジクロロメタン 洗浄装置	各種届出・自主検査の実施 及び記録の保管	○	○	2008/12設置届け、自主検査実施結果の保 管、氏名変更2013/4届け
6	騒音規制法	空気圧縮機 (BSD72)	各種届出	○	○	2007/11設置届け、氏名変更2013/4届け、 測定実施2014/1、防止方法変更・全廃・承 継において随時届出
7	振動規制法	空気圧縮機 (BSD72)	各種届出	○	○	2007/12設置届け、氏名変更氏名変更 2013/4届け、測定実施2014/1、防止方法 変更・全廃・承継において随時届出
8	土壌汚染対策法	ジクロロメタン 洗浄装置	特定施設廃止時に土壌汚染 状況の調査	○	○	土壌への流出の無き様、コンクリートの割れ 等チェックが必要
9	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物 処理時	マニフェストの管理、ジクロ ロメタン(特別管理産業廃棄 物管理責任者の選任)	○	○	マニフェストの保管、ジクロロメタン廃液に ついてはリサイクル可能のため原材料とし て売却(※証明書類の保管)、 特別管理産業廃棄物管理責任者講習受講 (2名)、産業廃棄物処理の際には選任予定
10	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRT法)	第1種指定化 学物質・第 145号ジクロ ロメタン	対象物質の年間移動量算出 及び届出	○	○	ジクロロメタンの使用、製造業。21名以上の 事業者、年間使用量1t以上により該当、 2013年度届出
11	フロン排出抑制法	エアコン (7.5KW以上)	業者委託定期点検の実施	—	—	対象エアコンなし
12	取引先グリーン調達基準	—	—	○	○	お客様からの要求について調査実施、自社 制定の検討
13	地下水の揚水施設に関する条例	法令	法令	○	○	山梨県森林環境部に9号様式届出

⑨代表者による全体評価と見直し結果

2024年 5月 1日に全体の評価と見直しを実施
EA21ガイドラインⅣ 要求事項14に準拠して行われていた。

- ・環境経営方針

2023年度の総括として、CO2排出量が2022年度対比36%減となり、目標3%減を達成した。

- ・環境経営目標及び環境経営計画

電気使用量が2022年度対比12.8%減となり、Co2同様に目標3%減を達成となったが、来期以降はダイカストマシンの移設により電気使用量の増加が予想されるため設備を効率的に稼働させ削減を行う。

- ・実施体制

活動を推進するために各部門で業務品質環境会議にて報告をするようにし、停滞させないように今後も全員参加で活動を進めて下さい。

－ 以上 －